

若手職員の声～捜査公判編～



～プロフィール～(令和6年11月時点)

那覇地方検察庁 採用2年目(大卒程度試験)

現在の部署:捜査公判部門 立会事務官

Q1 今はどんな仕事をしているのですか？

立会事務官として、検察官と共に刑事事件の捜査から公判（裁判）までの刑事手続に必要な事務を行っています。

捜査段階では、被疑者や被害者に対する取調べへの立会や証拠品の精査など事件を立証する上で必要な証拠を集め、公判段階では、公判手続に必要な書類作成や証人との調整、被害者等への公判状況の通知を行うなど、様々な仕事をしています。

Q2 仕事をする上で心がけていることはありますか？

業務の性質上、プライバシーに関わる情報を多く取り扱うので、忙しいときこそ基本に忠実に、適正な事務処理を行うよう心がけています。

Q3 今後やってみたい仕事はありますか？

検察事務官として一定の経験を積むと、副検事選考試験を受けることができ、合格すると、副検事になることができます。

私は、検察官（検事・副検事）という仕事のやりがいや大変さを間近で感じられる立会事務官として、今後もより多くの刑事事件に携わりたいと思っています。

Q4 那覇地方検察庁の魅力を教えてください！

私が入庁を決めた一番の決め手は、業務説明会や官庁訪問での職場の雰囲気でした。

職員同士の会話や、業務説明会で対応してくれた職員の話を聞いて、働きやすそうな職場だと感じました。入庁後はより一層、風通しの良い職場だと感じています。特に若手職員は、職員同士のコミュニケーションが活発で、定期的にスポーツや飲み会をして集まったりするなど、日々の疲れをリフレッシュすることができています。

Q5 最後に検察事務官の先輩として一言お願いします！

部署によっては、忙しく大変な時期もありますが、私としては、学生の頃よりもメリハリのついた生活ができており、とても充実しています。

今は試験対策等で大変な時期だと思いますが、皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています！チバリヨー！

立会事務官は、検察官と約1年間ペアとなり、二人三脚で仕事をする事務官です。

那覇地検では、事件の捜査から公判まで同じ検察官が担当していますが、庁によっては捜査と公判の部署が分かれていることもあります。

捜査の最前線で多くの若手職員が活躍しています！



次回の更新もお楽しみに！